

## 教育文化・福祉対策特別委員会派遣調査等報告 131028

日 時：2013年10月28日

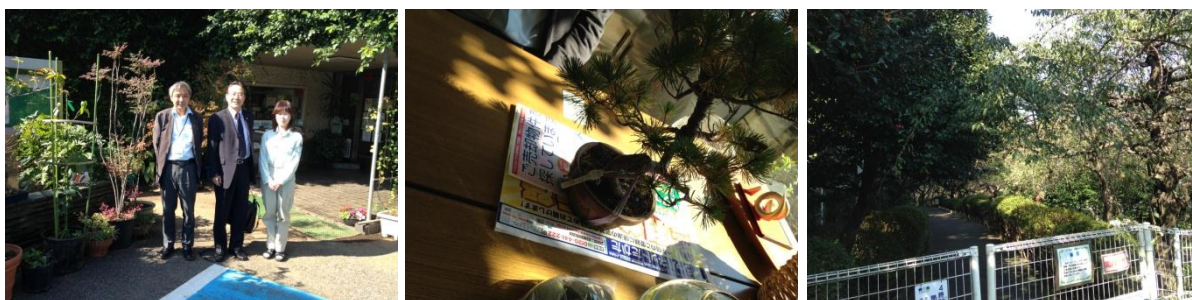
調査先：さいたま市大宮盆栽美術館ほか

報告者：愛知県議会議員 鈴木 純

### ■埼玉県農林部花と緑の振興センター

(副所長大熊洋一氏 緑化企画・振興担当部長高山智子女史)

全国の盆栽輸出の3割強を占める埼玉県の輸出盆栽の振興について意見聴取した。全国の盆栽輸出順位は、1位が埼玉県32.8%、以下香川県28.5%、神奈川県17.2%、千葉県12.0%、栃木県7.3%である。埼玉県のEU圏への輸出は、イタリア42.7%、スペイン16.7%、オランダ14.2%など17カ国に、イロハモミジ、ゴヨウマツ、イブキ等が輸出されており、輸出検査実績は13,340本(全国の輸出検査実績は約4万5千本)、生産額約2000万円、出荷平均単価約2000円とのこと。EU圏など海外における盆栽の需要は年々拡大しているが、線虫、カミキリムシ等により植物検疫の強化が必要とされ、この為に行われている栽培地検査に対し、埼玉県として植物防疫所と埼玉県輸出盆栽研究会の補助員制度の仲介支援をしている。EU圏への輸出(土付)に対し、2年間、年6回の検査が必要とされるが、5月～8月の年4回は補助員により実施されている。過去6年間の栽培地検査の合格本数では埼玉県が5万本程度で常に第1位であるのに対し、愛知県は5千本程度で過去2回5位に計上されているのみだった。輸出には2年連続合格が必要なため輸出可能対象は栽培地検査の合格本数(約5万本)の半分となり、その中から実際に輸出された輸出検査実績(約1万3千本)となる。



### ■創業江戸嘉永年間 盆栽 清香園

(日本盆栽作家協会代表幹事 清香園代表取締役 山田登美男氏)

清香園さんの住所は、さいたま市北区盆栽町268です。江戸時代から植木盆栽が盛んだった東京から、関東大震災を機に都市化の波に押されて郊外に新天地を求め埼玉県大宮在盆栽村が誕生したといわれている。山田氏からは、愛知県の盆栽が元気がないと指摘を受け、中川区や岡崎市、そしてもちろん稲沢の故竹下さんとの親交や新海御兄弟の話など興味深く伺うことが出来ました。時代が変わり清香園5代目清香園彩花流家元山田香織さん

が主宰する彩花盆栽教室には多くの女性が受講しているとのこと。環境の時代、人にやさしい、空間を和ませる盆栽の未来に大いに期待している、その気概が伝わってきた。



### ■さいたま市大宮盆栽美術館

(副館長田口勝一氏 学芸員林進一郎氏)

旧高木盆栽美術館のコレクションを核に誕生した、さいたま市大宮美術館は総合的な盆栽文化を発信する世界で初めての公立の盆栽美術館として 2010 年に開館し、盆栽を中心として、盆器、水石、絵画資料、歴史資料等が紹介されており、さいたま市の伝統産業にも指定されている盆栽の文化を広く内外に発信する拠点として機能している。美術館内のコレクションギャラリー(管理は大変)には、日本盆栽作家協会展が開催されており、堂々とした作品が並ぶとともに、盆栽の技と鑑賞の解説もあり楽しく学ぶことが出来る。また、企画展示室では歴史や政治家から愛された盆栽など興味深い資料が展示されていた。庭園には 50 点ほどの季節に合わせた盆栽が展示されており、ゆったりと時間を忘れて観賞できる。五葉松 銘「千代の松」は圧巻だった。所在地の付近は盆栽村といわれる地域があり、盆栽園で修業した外国人や、盆栽園の方がイタリアなどに出かけ指導をしており、文字通り日本文化の発信地となっている。埼玉県の盆栽輸出は全国 1 位でその内の 4 割強がイタリアへ輸出されているが、県としても盆栽の海外輸出の手続き等に支援しているとのことだった。2017 年第 8 回世界盆栽大会開催のメッセージボードが眩しい、愛知・稲沢もコラボできればと願う。

